

平成27年度第1回愛知県健康づくり推進協議会議事要約

【日 時】平成27年7月3日(金) 午後3時30分から午後5時

【会 場】愛知県議会議事堂1階ラウンジ

【委 員】出席 15名、欠席6名

【事務局】17名

【傍聴者】1名

【内 容】

1 挨拶(愛知県健康福祉部保健医療局長 松本 一年)

本協議会は、少子高齢化や疾病構造の変化が進む中で、生活習慣及び社会環境の改善を通じ、「健康長寿あいち」の実現を目指して県民の健康づくりを総合的かつ効果的に推進するため、年2回開催するものである。

本日の議題は2つで、1つ目に平成25年3月に策定した3つの計画である「健康日本21あいち新計画」、「愛知県がん対策推進計画」、「愛知県歯科口腔保健基本計画」の本年度の取組内容について、2つ目に「健康日本21あいち新計画」の中間評価について、御協議をいただきたい。

関係機関と連携し、県民の皆様が気軽に健康づくりに取り組める施策や、環境整備を図ることが大変重要であると考えます。社会全体で健康を支える仕組みを作り、本県が目指す「健康長寿あいち」を実現するため、今後の健康づくり事業に何が必要かを議論していただき、時代に即した施策を推進していきたい。

2 議題

(1) 平成27年度健康増進事業の推進について

- ・「健康日本21あいち新計画」の推進について
- ・「愛知県がん対策推進計画(第2期)」の推進について
- ・「愛知県歯科口腔保健基本計画」の推進について

(2) 健康日本21あいち新計画の中間評価について

< 主な意見 >

ソーシャルキャピタル（人々が持つ信頼関係や社会的ネットワーク）といった社会全体で健康づくりを支えていくという概念は、健康日本21の第二次で導入された考えで、国ではスマートライフプロジェクトで参加する企業をカウントする形で指標をとっていくとしている。昨今、国では省庁横断的にICT技術の利活用による情報提供等を推進しているが、県では中間評価であいち健康マイレージ事業の実施数等が分かるので、より精度の高い方法としてICT技術を活用した指標へ切り替えを検討してはどうか。

ソーシャルキャピタル、地域力を向上させることは、より効果的な健康づくりを可能にする。中間評価で、マイレージ事業に関する各市町村の状況を集められれば、どれくらい地域で進められているのか中間評価として大きな指標となる。

昨年、胃がん検診ガイドラインにおいて、内視鏡検査が推奨という形になった。3年のスパンで1回内視鏡検査を行い、死亡率が抑制されたというエビデンス（治療等に関する効果）が出たことに基づいている。コスト面や、検診の内視鏡検査を実施できる施設数の問題によりすぐに検査方法を変更することにはならないかもしれないが、検討が必要だと考える。

がん検診を実施する市町村は、毎年度クーポン事業や検診の内容が変更され対応に追われており、今回の胃がん検診の内視鏡検査の推奨に関しては様々な課題があることから対応に悩むところである。

高齢者の在宅歯科診療について、全国的に課題となっており、中でも歯科衛生士の活用が問われている。ライセンスがありながら就業していない歯科衛生士について、愛知県ではまず実態調査を実施するという事で、歯科衛生士の活用に役立てていただきたい。

昨年度から若い世代への口腔ケアの推進事業が始まり、大学生を対象とした意識改革のための出前講座については今後の変化としてどのような効果が出るのかを将来的には分かる形にしてほしい。

歯周病は喫煙率とも関係が深い。喫煙はがんや生活習慣病にも大きく影響し、大学生で喫煙を始める人が多いので、大学生への啓発事業として口腔ケアの習慣とともに喫煙対策について啓発することは大変重要である。

法定の歯科検診期間にあたらぬ20歳から39歳までの人の歯科検診への認識が低く、法定の歯科検診があると望ましいが、自治体における節目検診があるとよい。歯周病予防のため健康な時期からの施策を考えていかなければならない。

フッ化物洗口は現在学校のクラス単位で行う形だが、学校の先生への業務的負担が大きく、推進が難しくなっている。地域の健康推進員やボランティアなど社会貢献を希望する方に活躍の場として協力いただき、先生に負担をかけない方策を自治体で工夫していく必要がある。

フッ化物洗口について、取組を行っているところと行っていないところの子供たちの齲歯の状況を比較し、データでの数字を明らかにする必要がある。今回の中間評価で、自治体がどういう取組を行っているかを調べ、自治体ごとのデータの推移の差が事業と関連していることを明らかにできれば、口腔の状況についてのエビデンスとなる。